

# 宜野湾市の未来をつなぐ、新しい公共交通のカタチ

誰もが安心して移動できる「生活インフラ」を目指して



令和8年度 経済建設常任委員会

一言まとめ：これからの宜野湾市の「移動」について、一緒に考えてみませんか？

# なぜ今、地域公共交通が必要なのか

## 車がある日常



- ✓ 好きな時間に移動できる
- ✓ 買い物も通院もスムーズ
- ✓ 雨の日や坂道も気にならない

## 車がない日常

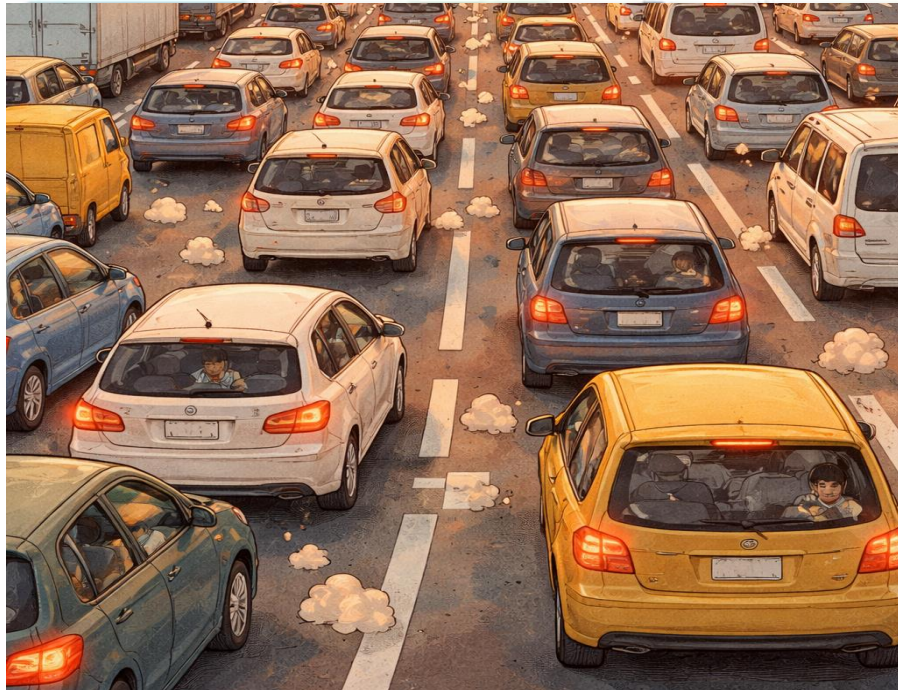


- ⚠ 限られた移動手段
- ⚠ 交通弱者（高齢者や学生）の移動手段が不足
- ⚠ バス路線の利便性の課題（本数・時間帯・乗り継ぎ）
- ⚠ 渋滞による定時性の低下

👉 一言まとめ：「移動できる人と、できない人の差が広がっている」

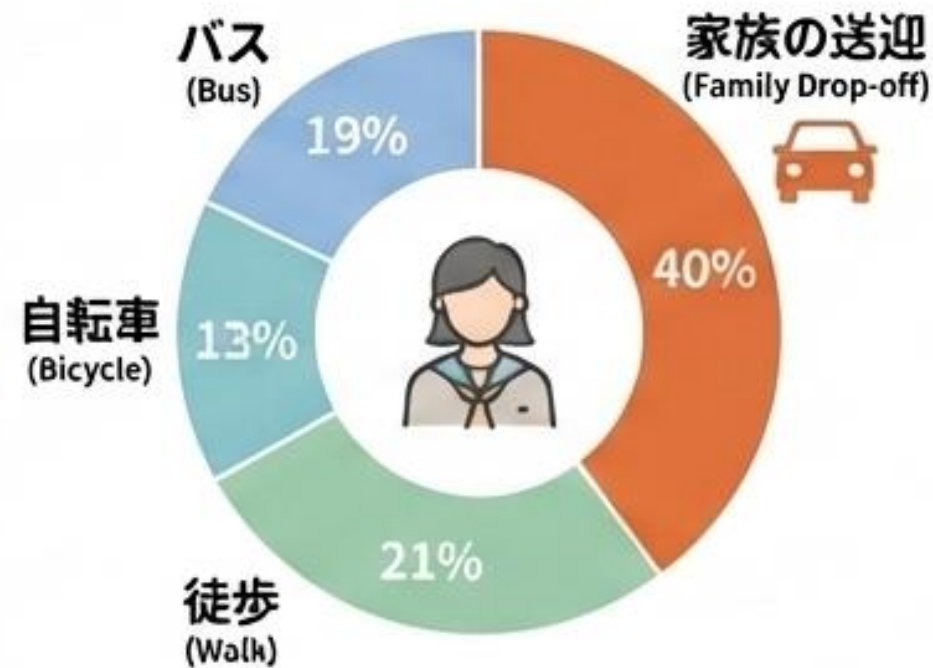
# 宜野湾市の現状

## 渋滞と遅延



主要幹線の慢性的な渋滞（混雑度1.84~2.00）により、バスの定時性が大きく低下。時間が読めない現状。

## 学生の現状



市内高校生の約4割が「家族の送迎」に依存。運賃の高さやバス停の遠さがネックに。

## 地域の特性



米軍基地が市の中央に位置し、ドーナツ状の形状をしている。基地を迂回する移動が必要となり、効率的な公共交通網の構築が困難。

👉 一言まとめ：「データが示す、日々の『移動の偏り』と見過ごせない課題」

# なぜ飯塚市を調査したのか



飯塚市では、複数の交通手段を組み合わせた地域公共交通を実施し、地域の実情に応じた柔軟な運用と、利用者ニーズに合わせた仕組みづくりに成功しています。

👉 一言まとめ：「一つの正解ではなく、“組み合わせ”で解決している点に注目！

# 視察で見えたポイント ①：利用者目線で設計されている



1

## 直感的な予約

デジタルでも、電話でも。  
誰でも簡単に予約ができる仕組み。



2

## 明確な場所と時間

時間・場所・予約方法が  
分かりやすく、迷わない。



3

## スムーズな乗車

利用者の生活リズムに合わせた、  
ストレスのない移動。

👉 一言まとめ：「誰もが迷わず使える、思いやりのあるデザイン」

# 視察で見えたポイント②：行政と民間の役割分担が明確



## 【設計は行政】

- 地域ニーズの把握
- 全体のシステム構築
- 財政的・制度的な支援
- コールセンター等のインフラ整備



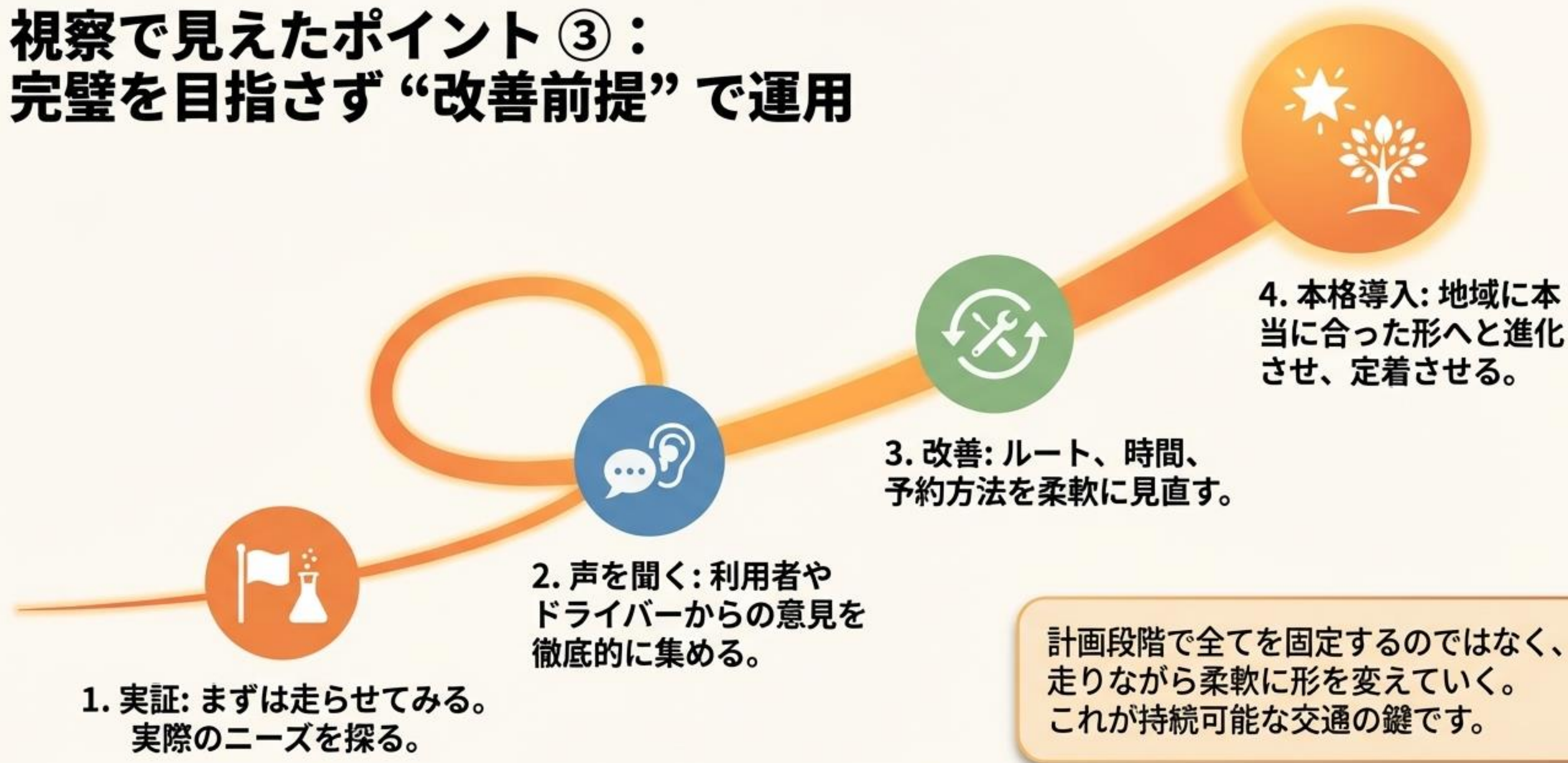
## 【運行は民間】

- 実際の車両運行
- プロフェッショナルな接客
- 日々の安全管理（タクシー事業者等への委託）

強い連携による  
持続可能性

👉 一言まとめ：「行政が土台を作り、民間が走らせる。それぞれの強みを活かす」

# 視察で見えたポイント③： 完璧を目指さず“改善前提”で運用



👉 一言まとめ: 「最初から完璧ではなく、実証と改善で『育てる交通』」

# 宜野湾市でも動きが始まる



## 令和8年度（FY2026）実証実験

本市南地区をモデルとして、新たな「オンデマンド交通」の実証実験を予定。

- 新たな移動手段（オンデマンド型）の導入検討
- タクシー事業者と連携した運行業務の検証
- 市民ニーズに本当にお応えできるかの実地テスト

👉 一言まとめ：「これからがスタート。新しい移動の選択肢を作ります」

# 議会としての責任

## 交通は「生活インフラ」

市民の皆様の移動手段は、水や電気と同じく、日々の暮らしを支える絶対的な基盤です。

## 「やりっぱなし」にしない

実証実験を「やって終わり」にはしません。必ずデータを検証し、次なる改善へとつなげます。

## 持続可能な仕組みへ

誰もが利用しやすく、そして将来の世代まで残せる持続可能な交通システムを目指します。

生活インフラ (Life Infrastructure)

“ 「宜野湾市議会としても、市民の皆様が安心して移動できる環境づくりに向け、より良い地域公共交通の実現に努めてまいります。」 ”

👉 一言まとめ：「移動の自由を守り抜く決意です」

# 市民の皆様へのお願い

## 実証実験へのご協力をお願いいたします。

いくら素晴らしいシステムを設計しても、皆様に「乗って」いただかなければ、公共交通は育ちません。

令和8年度から始まる実証実験では、ぜひ実際に使ってみて、皆様の「生の声（使いやすい点、不便な点）」をお聞かせください。

皆様の利用と声が、宜野湾市の未来の交通をつくります。



👉 一言まとめ：「使われてこそ、交通は成り立つ」